



5つの「徹底・継続」実践事項 質の向上へのヒント～「関係づける思考」

◆兵庫教育大学大学院の勝見教授の講義では、未来型学力の話がありました。

『教科共通の力や教科横断の力がますます重要です。根っこの部分の共通の力こそが関係づける力です。知識を持ち寄って、新しいものに更新していく力、つまり、それぞれの考えを出し合いながら、最適解を求めていく学びを、教室の中にあえて作ることが求められます。子どもたちの思考を鍛えるには、対話的な学びを異質な他者と行わせることが重要です。』

◆全国学力学習状況調査でも「関係づける力」が問われ、正答率が低いとの指摘もありました。

- ①授業研究会で全国学力学習状況調査が語られているか？
- ②条件作文ばかり書かせてもだめである。読むことと書くこと、理解と表現を往復しているか？
インプット（理解）した内容についてアウトプット（表現）させていくこと。
- ③「活動の指示」から「思考の仕方の指示」へ
「どう思う？」⇒「何が、どう違うの？」
「今までのやり方を使って」⇒「〇〇のやり方を使って」
「どんな結果だった？」⇒「予想と比べてどんな結果だった？」
- ④学習課題には、関係づけ方が見えるような言葉を埋め込む。
「～と～を比べて、違うところとそのわけを明らかにしよう。」
「～した理由を、〇〇の▲▲への関わり方から考えよう。」

【思考の仕方の指示】

- ①学習課題に落とし込む
- ②発問に落とし込む
- ③ワークシートに落とし込む
- ④板書に落とし込む 等

◆テキスト変換（条件に基づく思考）をどの教科でも取り入れて、子どもの思考力を伸ばすことも、ご指導いただきました。これは**関係づける思考**と同じで、**今まで無意識に授業の中で行われてきたもので、授業の中でどのように明確に子どもたちに示し、対話活動とセットで落とし込むかがポイント**です。

- 例：①観察したこと⇒記録として書く。
②実験したこと⇒グラフに書く。報告書に書く。
③物語のあらすじ⇒キャッチコピーに書く。
④遠足に行ったこと⇒新聞に書く。
⑤案内文⇒放送原稿に書く。



◆「関係づける思考」はどの教科でも、活用可能です。

5つの「徹底・継続」実践事項の「論理的思考」の精度を高める方法の一つですが、**「関係づける思考」はあくまで手段**です。**教科の目標、本時の目標の達成こそが目的**です。日々の授業で「関係づける思考」を活用してみて、子どもの学びがどう変わるのか、実践を蓄積していきましょう。